

過去の原発差止裁判例一覧表（行政訴訟を含む）

| 番号 | 対象施設 | 年月日 | 裁判所 | 訴訟形態 | 結論 | 評釈 | 審級 | 上訴等 | 備考 | |
|----|------|-----------------|---------|------|---------|------|--------------------------|---------|------|--|
| 1 | 伊方 | 1978(S53).4.25 | 松山地 | 行 | 取消 | 棄却 | 判時891-38 判タ362-124 | | 控訴 | |
| 2 | 福島第二 | 1984(S59).7.23 | 福島地 | 行 | 取消 | 棄却 | 判時1124-34 判タ539-152 | | 控訴 | |
| 3 | 伊方 | 1984(S59).12.14 | 高松高 | 行 | 取消 | 棄却 | 判時1136-3 判タ542-89 | 1の控訴審 | 上告 | 裁量論：安全の実体判断代置を行うのではなく、行政庁の判断に不合理な点があるかという限度で行う 立証責任：公平の見地から、明確に行政庁に立証責任を転換 |
| 4 | 東海第二 | 1985(S60).6.25 | 水戸地 | 行 | 取消 | 棄却 | 判時1164-3 判タ564-106 | | 控訴 | |
| 5 | もんじゅ | 1987(S62).12.25 | 福井地 | 行 | 無効確認 | 棄却 | 判時1264-31 判タ663-58 | | 控訴 | |
| 6 | もんじゅ | 1989(H1).7.19 | 名古屋高金沢支 | 行 | 無効確認 | 棄却 | 判時1322-33 判タ708-77 | 5の控訴審 | 上告 | |
| 7 | 福島第二 | 1990(H2).3.20 | 仙台高 | 行 | 取消 | 棄却 | 判時1345-33 判タ726-108 | 2の控訴審 | 上告 | |
| 8 | もんじゅ | 1992(H4).9.22 | 最 | 行 | 無効確認 | 破棄差戻 | 判時1437-29 判タ801-83,96 | 5,6の上告審 | 一審差戻 | 原告適格：半径58km以内に原告適格を認める。内容について差戻 |
| 9 | 伊方 | 1992(H4).10.29 | 最 | 行 | 取消 | 棄却 | 判時1441-37 判タ804-51 | 1,3の上告審 | 確定 | 法の趣旨：深刻な災害が方が一にも起こらないようにする 立証責任：国が①基準の合理性+②基準適合判断の合理性を立証すべき 判断基準：現在の科学技術水準 裁量論：国に専門技術的裁量を認める 判断対象：基本設計部分のみ |
| 10 | 福島第二 | 1992(H4).10.29 | 最 | 行 | 取消 | 棄却 | 判時1441-50 判タ804-65 | 2,4の上告審 | 確定 | |
| 11 | 高浜 | 1993(H5).12.24 | 大阪地 | 民 | 運転差止 | 棄却 | 判時1480-17 判タ847-83 | | 確定 | 争点：蒸気発生器の伝熱管の破断（ワニイシュー） 訴訟物：×環境権 |
| 12 | 女川 | 1994(H6).1.31 | 仙台地 | 民 | 建設差止 | 棄却 | 判時1482-3 判タ850-169 | | 控訴 | 訴訟物：×環境権 安全程度：×絶対的安全 → ○社会通念論Aにより相対的安全を採用 立証責任：I住民i発生→ii放出→iii拡散→iv到達→v被害を立証→II事業者「安全に欠ける点のないこと」を非公開の資料を含む必要な資料を提出したうえで立証→III住民「安全性に欠ける点があること」について更なる立証（二段階構成） |
| 13 | 柏崎刈羽 | 1994(H6).3.24 | 新潟地 | 行 | 取消 | 棄却 | 判時1489-19 判タ843-60 | | 控訴 | 争点：経理的基礎の主張適格、手続的瑕疵、平常時被ばくなど 被曝閾値：閾値なし、審査時の線量値は、現時点で合理性に疑問あり 裁量：専門技術的裁量事項であっても司法審査の範囲が限定されるものではないことを示唆 |
| 14 | 志賀 | 1994(H6).8.25 | 金沢地 | 民 | 建設→運転差止 | 棄却 | 判時1515-3 判タ872-95 | | 控訴 | 訴訟物：×環境権 立証責任：女川型類似（転換の根拠に危険性を挙げる） 不要性：受忍限度論採用せず、必要性について踏み込まず |
| 15 | 志賀 | 1998(H10).9.9 | 名古屋高金沢支 | 民 | 運転差止 | 棄却 | 判時1680-46 判タ994-82 | 14の控訴審 | 上告 | |

| | | | | | | | | | | |
|----|--------------|-----------------|---------|---|---------|-------|-------------------------|-------------|-------|--|
| 16 | 泊 | 1999(H11).2.22 | 札幌地 | 民 | 運転差止 | 棄却 | 判時1676-3 | | 確定 | 訴訟物：環境権は、人格権に基づく請求と基本的に同一結論として棄却したが「絶対に安全かと問われたとき、これを肯定する能力を持たない」「国民の間でも、原発の安全に対する不安が払しょくされているとはいえない」「問題は未解決のまま」「自分たちの子どもに何を残すのか。多方面からの議論を尽くし、英知を集めて、賢明な選択をしなければならぬ」と判示 |
| 17 | 女川 | 1999(H11).3.31 | 仙台大 | 民 | 運転差止 | 棄却 | 判時1680-46 | 12の控訴審 | 上告 | 判断方法：事故の深刻さという特殊性を念頭に、十分に安全側に立った慎重な認定・評価をする必要あり 不要性：必要性が高くとも危険なら差止め。逆に、必要性が著しく低い場合、それだけで差止めが認められる余地がある 多重防護：絶えず防護体制の改良・修正に意を用いるとともに、個々の場面・段階での対応に万全を期する必要がある |
| 18 | もんじゅ | 2000(H12).3.22 | 福井地 | 行 | 無効確認 | 棄却 | 判時1727-33 判タ1043-122 | 8の差戻審 | 控訴 | 判断方法：重大かつ明白な瑕疵に限られる 基準時：原則として処分時＋科学的知見は現在の科学技術水準 |
| 19 | 伊方 | 2000(H12).12.15 | 松山地 | 行 | 取消 | 棄却 | 判タ1057-87 | | 確定 | |
| 20 | 志賀 | 2000(H12).12.19 | 最 | 民 | 運転差止 | 不受理 | - | 14,15の上告審 | 確定 | |
| 21 | 女川 | 2000(H12).12.19 | 最 | 民 | 運転差止 | 不受理 | - | 12,17の上告審 | 確定 | |
| 22 | 東海第二 | 2001(H13).7.4 | 東京高 | 行 | 取消 | 却下・棄却 | 判時1754-35 判タ1063-79 | 4の控訴審 | 上告 | 原告適格：半径20kmから100km余りの遠隔地に転居→原告適格なし 審判対象：設置許可の途中に設置変更許可→変更許可の違法を審理可能 |
| 23 | 六ヶ所（ウラン濃縮工場） | 2002(H14).3.15 | 青森地 | 行 | 取消・無効確認 | 却下・棄却 | 判タ1102-79 | | 控訴 | |
| 24 | もんじゅ | 2003(H15).1.27 | 名古屋高金沢支 | 行 | 無効確認 | 認容 | 判時1818-3 判タ1117-89 | 18の差戻控訴審 | 上告 | 判断方法：原発は潜在的危険の重大さゆえに特段の事情があり、明白性は要求しない＋具体的危険が否定できないときは重大な違法がある ①ナトリウム漏えい事故を踏まえ、床ライナの健全性と床ライナの温度上昇に関する安全評価に看過し難い過誤、欠落あり ②蒸気発生器伝熱管破損事故を踏まえ、高温ラプチャ発生の可能性を排除できず、看過し難い過誤、欠落あり ③遷移過程における再臨界の際の機械的エネルギー評価はされておらず、看過し難い欠落あり |
| 25 | 東海第二 | 2004(H16).11.2 | 最 | 行 | 取消 | 不受理 | - | 4,22の上告審 | 確定 | |
| 26 | もんじゅ | 2005(H17).5.30 | 最 | 行 | 無効確認 | 破棄棄却 | 判時1909-8 判タ1191-175 | 18,24の差戻上告審 | 確定 | 基本設計論と、法律審において事実認定を行うという禁じ手により、原審破棄し、控訴を棄却した |
| 27 | 柏崎刈羽 | 2005(H17).11.22 | 東京高 | 行 | 取消 | 棄却 | 訟務月報52-6-1581 | 13の控訴審 | 上告 | |
| 28 | 志賀 | 2006(H18).3.24 | 金沢地 | 民 | 運転差止 | 認容 | 判時1930-25 判タ1277-317 | | 控訴 | 訴訟物：×環境権 判断方法：受忍限度論を採用 立証責任：I住民 具体的危険を相当程度立証→公平の見地から、II事業者 具体的危険の不存在を立証（証明度軽減型＋立証責任転換型とのハイブリット） |
| 29 | 六ヶ所（ウラン濃縮工場） | 2006(H18).5.9 | 仙台大 | 行 | 取消 | 却下・棄却 | - | 23の控訴審 | 上告 | |
| 30 | 六ヶ所（低レベル廃棄物） | 2006(H18).6.16 | 青森地 | 行 | 取消 | 却下・棄却 | 判タ1278-97 | | 控訴 | |
| 31 | 浜岡 | 2007(H19).10.26 | 静岡地 | 民 | 運転差止 | 棄却 | - | | 控訴係属中 | 立証責任：I事業者「原発が関連法令に従って運転」を立証→II住民「規制で安全が確保されないこと」を立証（二段階構成） 判断：種々の不備を指摘しながら、これまで大事故に至らなかったこと等を理由にセーフ 安全余裕論の登場 |
| 32 | 六ヶ所（ウラン濃縮工場） | 2007(H19).12.21 | 最 | 行 | 取消 | 不受理？ | - | 23,29の上告審 | 確定 | |
| 33 | 六ヶ所（低レベル廃棄物） | 2008(H20).1.22 | 仙台大 | 行 | 取消 | 棄却 | - | 30の控訴審 | 上告 | |
| 34 | 志賀 | 2009(H21).3.18 | 名古屋高金沢支 | 民 | 運転差止 | 破棄棄却 | 判時2045-3 判タ1307-187 | 28の控訴審 | 上告 | 立証責任：女川型 ただし、あてはめで「基準に適合しているだけでOK 住民がこれを揺るがす反論反証をしない限り、安全に欠ける点のないことの立証は尽くされる」とした（浜岡型） |

| | | | | | | | | | | |
|----|---------------|-----------------|--------|---|---------|------|------------|-----------|---------|--|
| 35 | 柏崎刈羽 | 2009(H21).4.23 | 最 | 行 | 取消 | 不受理 | - | 13,27の上告審 | 確定 | 2007の中越沖地震を踏まえ、主張をさせた挙句、上告理由及び上告受理理由なしとの理由で棄却 |
| 36 | 六ヶ所 (低レベル廃棄物) | 2009(H21).7.2 | 最 | 行 | 取消 | 不受理 | - | 30,33の上告審 | 確定 | |
| 37 | 志賀 | 2009(H21).10.29 | 最 | 民 | 運転差止 | 不受理 | - | 28,34の上告審 | 確定 | |
| 38 | 島根 | 2010(H22).5.31 | 松江地 | 民 | 運転差止 | 棄却 | - | | 控訴係属中 | 立証責任：志賀控訴審と類似（形式は女川型だが実質は浜岡型） 科学の不定性：活断層研究はまだまだ発展途上→現段階では被告の判断に十分根拠あり |
| 39 | 大飯 | 2013(H25).4.16 | 大阪地 | 民 | 運転差止仮処分 | 却下 | 判夕1403-309 | | 即時抗告 | |
| 40 | 大飯 | 2014(H26).5.9 | 大阪高 | 民 | 運転差止仮処分 | 棄却 | - | 39の即時抗告審 | 確定 | |
| 41 | 大飯 | 2014(H26).5.21 | 福井地 | 民 | 運転差止 | 認容 | 判時2228-72 | | 控訴 | 立証責任：住民「人格権侵害の具体的危険の方が一性」（立証命題再構築型） 比較衡量：経営の自由は人格権の根幹部分に劣後する 判断方法：民事訴訟では、炉規法等の規定にかかわらず、実体判断代置可能 地震動：超過地震の存在→基準地震動は信頼に値しない 安全余裕：意味不明で、不確定要素が多く、偶然に期待すべきでない 使用済燃料：使用済燃料を堅固な施設で囲んでいない点を問題視 国 富 論：事故によって国土を失うことこそが国富の喪失 地震動：平均像+ α 程度で足りるとは到底思えず、原規委が許可を出すはずがないから保全の必要性なし、という理由で却下→47へ |
| 42 | 高浜 | 2014(H26).11.27 | 大津地 | 民 | 運転差止仮処分 | 却下 | - | | 確定 | |
| 43 | 玄海 | 2015(H27).3.20 | 佐賀地 | 民 | 運転差止 | 棄却 | - | | 控訴 | |
| 44 | 高浜 | 2015(H27).4.14 | 福井地 | 民 | 運転差止仮処分 | 認容 | 判時2290-13 | | 異議 | 41と同じ裁判体 地震動：基準地震動を超える地震が到来しないというのは根拠に乏しい 楽観的見通しで、基準地震動に満たない地震でも冷却機能喪失の危険がある それは万が一をはるかに超える現実的で切迫した危険 |
| 45 | 川内 | 2015(H27).4.22 | 鹿児島地 | 民 | 運転差止仮処分 | 却下 | 判時2290-147 | | 即時抗告 | 立証責任：I事業者「基準の合理性+基準適合判断の合理性」を立証→II住民「安全性に欠ける点のあること」について立証（二段階構成） 安全程度：安全目標を参照 火山：火山問題が初めて登場 ガイドは不合理ではない 避難計画：現時点で一応の合理性・実効性を備えている |
| 46 | 高浜 | 2015(H27).12.24 | 福井地 | 民 | 運転差止仮処分 | 取消却下 | 判時2290-29 | 44の異議審 | 保全抗告→取下 | 立証責任：川内型「ただし、事業者は設置変更許可に関する合理性だけ言えばOK（工事計画認可+保安規定変更認可の不合理性は住民側が立証）」 地震動：超過地震に対する地域特性論 安全余裕：耐震安全性における安全余裕を認定 童 巻：童巻問題が初めて登場 |
| 47 | 高浜 | 2016(H28).3.9 | 大津地 | 民 | 運転差止仮処分 | 認容 | 判時2290-75 | | 異議 | 立証責任：伊方を改良→福島事故を踏まえ、規制がどのように変化し、その要請にどのように答えたのか立証を尽くすべき 基礎データも提供すべき（立証責任転換型） 徹底した原因究明を行わない姿勢を不安視 災害が起こる度に「想定を超える」災害であったと繰り返されてきた過ちを指摘→見落としの可能性を考え、過酷事故が生じたとしても、致命的な状態に陥らないよう基準を策定すべき→立証不十分 地震動：平均像問題を採用 避難計画：国には、実効性ある基準を策定する信義則上の義務がある→立証不十分 |
| 48 | 川内 | 2016(H28).4.6 | 福岡高宮崎支 | 民 | 運転差止仮処分 | 棄却 | 判時2290-90 | 45の即時抗告審 | 確定 | 立証責任：I事業者「人格権侵害の具体的危険の不存在①として基準合理性+基準適合判断合理性」を立証→ダメでもII事業者「人格権侵害の具体的危険の不存在②」を立証（変則二段階構成） 安全程度：炉規法→合理的に予測される規模論 地震動：平均像問題に対し、地域特性論で容認 火山：火山ガイド不合理→破局的噴火は社会通念論Bで容認 |
| 49 | 玄海 | 2016(H28).6.27 | 福岡高 | 民 | 運転差止 | 棄却 | - | 43の控訴審 | 確定 | |

| | | | | | | | | | | |
|----|----|-----------------|---------|---|---------|------|-----------------|-------------|--------|---|
| 50 | 高浜 | 2016(H28).7.12 | 大津地 | 民 | 運転差止仮処分 | 認可 | 判時2334-113 | 47の異議審 | 保全抗告 | 47と同じ裁判体 機序論：住民が具体的機序を立証しなくてもよい（福島後の社会通念） 安全余裕：余裕ではなく、当然考慮すべき計算 |
| 51 | 高浜 | 2017(H29).3.28 | 大阪高 | 民 | 運転差止仮処分 | 取消却下 | 判時2334-3 | 47,50の保全抗告審 | 確定 | 安全程度：相対的安全 他の施設に比べて格段に高度でなければならない 立証責任：I事業者「基準に適合すること」を立証→II住民「基準不合理性or基準適合判断不合理性」を立証（浜岡型） |
| 52 | 伊方 | 2017(H29).3.30 | 広島地 | 民 | 運転差止仮処分 | 却下 | 判時2357・2358-160 | | 即時抗告 | 判断方法：宮崎支部型（変則二段階構成，合理的に予測される規模論） 火 山：火山ガイド不合理→破局的噴火は社会通念論Bで容認 |
| 53 | 玄海 | 2017(H29).6.13 | 佐賀地 | 民 | 運転差止仮処分 | 却下 | 裁判所web | | 即時抗告 | 訴訟物：×環境権 立証責任：川内型+合理的に予測される規模論，社会通念論B 地震動：計算式の問題に踏み込んで判断 配管破断：配管の破断が争点→計画・方法は合理的 |
| 54 | 伊方 | 2017(H29).7.21 | 松山地 | 民 | 運転差止仮処分 | 却下 | 判時2393・2394-236 | | 即時抗告 | 判断方法：宮崎支部型（変則二段階構成，合理的に予測される規模論） 火 山：火山ガイドは不合理だが、到達可能性を否定して却下 |
| 55 | 伊方 | 2017(H29).12.13 | 広島高 | 民 | 運転差止仮処分 | 変更認容 | 判時2357・2358-300 | 52の即時抗告審 | 異議 | 判断方法：宮崎支部型（変則二段階構成，合理的に予測される規模論） 地震動：計算式の問題に踏み込んで完敗 火 山：火山ガイド不合理→社会通念論Bを用いず請求認容，影響評価も不合理 |
| 56 | 大間 | 2018(H30).3.19 | 函館地 | 民 | 建設差止 | 棄却 | 裁判所web | | 控訴係属中 | 判断方法：許可が出ていない段階→基準適合判断合理性評価不可→基準合理性のみ判断 証人尋問まで行ったにもかかわらず、多くの争点で基準適合判断の問題だから×とした |
| 57 | 玄海 | 2018(H30).3.20 | 佐賀地 | 民 | 運転差止仮処分 | 却下 | 裁判所web | | 即時抗告 | 53と別の仮処分だが、同じ裁判体 判断方法：玄海型 火 山：社会通念論Bを基準に取り込み、ガイドの合理性認める（基本的考え方に依拠） |
| 58 | 高浜 | 2018(H30).3.30 | 大阪地 | 民 | 運転差止 | 却下 | - | | 確定 | 争 点：ミサイルの脅威（ワンイシュー） |
| 59 | 大飯 | 2018(H30).7.4 | 名古屋高金沢支 | 民 | 運転差止 | 取消棄却 | - | 41の控訴審 | 確定 | 訴訟物：×環境権 被侵害利益：生活やコミュニティの侵害を認める 原発に内在する危険を絶対的に禁止するかは司法の役割を超える法政策の問題 立証責任：事業者「基準合理性+基準適合判断合理性」を立証（一段階構成） 基準合理性：基本的に裁量の問題で、違法の問題は生じない |
| 60 | 伊方 | 2018(H30).9.25 | 広島高 | 民 | 運転差止仮処分 | 取消棄却 | 判時2413・2414-71 | 52,55の異議審 | 確定 | 判断方法：宮崎支部型（変則二段階構成，合理的に予測される規模論） 火 山：火山ガイド不合理（基本的考え方否定）→破局的噴火は社会通念論Bで容認 |
| 61 | 伊方 | 2018(H30).9.28 | 大分地 | 民 | 運転差止仮処分 | 却下 | - | | 即時抗告取下 | 判断方法：玄海型 57とほぼ同様の考え方（巨大噴火だけでなくVEI6以上すべて無視できるとした点が特徴的） |
| 62 | 伊方 | 2018(H30).10.26 | 広島地 | 民 | 運転差止仮処分 | 却下 | 判時2410-73 | | 確定 | 52,55,60とは別の仮処分。 争 点：破局的噴火（ワンイシュー） 55で付された期限の延長を狙ったが人格権侵害の非切迫性を理由に排斥（被保全権利の問題と保全の必要性の問題を混同） |
| 63 | 伊方 | 2018(H30).11.15 | 高松高 | 民 | 運転差止仮処分 | 棄却 | 判時2393・2394-383 | 54の即時抗告審 | 確定 | 判断方法：玄海型 57とほぼ同様の考え方 |
| 64 | 伊方 | 2019(H31).3.15 | 山口地岩国支 | 民 | 運転差止仮処分 | 却下 | - | | 即時抗告 | 判断方法：玄海型 63とほぼ同様の考え方 |
| 65 | 大飯 | 2019(R1).3.28 | 大阪地 | 民 | 運転差止仮処分 | 却下 | - | | 即時抗告 | 争 点：元原規委委員長代理，島崎意見（ワンイシュー） 立証責任：川内型（二段階構成） |
| 66 | 川内 | 2019(R1).6.17 | 福岡地 | 行 | 取消 | 棄却 | 裁判所web | | 控訴係属中 | 火 山：火山ガイドに不合理な点がないことの立証に疑いが残るとしながら、火山ガイドは不合理といえないと判断（論理矛盾） |
| 67 | 玄海 | 2019(R1).7.10 | 福岡高 | 民 | 運転差止仮処分 | 棄却 | 裁判所web | 53の即時抗告審 | 確定 | 判断方法：玄海型 57とほぼ同様の考え方 |

